

防災で小さな命まもる

大船渡

こそだてシップの講演会

大船渡市のNPO法人こそだてシップ（伊藤裕子理事長）は11日、同市盛町のシーパル大船渡で、講演会「小さな命をまもる暮らしの中の防災」を開いた。

大震災の経験と、アウトドアの知識を生かした防災術を公開し、本の出版も行っている。

この日は、地域の親子ら約30人が参加。こそだてシップのメンバーが子どもたちを預かり、親たちは講演に集中した。

県大船渡保健所や気仙3市町、おおふなどキッズワーキングが後援。公益財団法人いきいき岩手支援財団「いわて子ども希望基金」の助成事業の一環で開催した。

講師を務めたのは、全国で防災の講演活動

を行っている、あんどろりすさん。阪神淡路大震災の経験と、アウトドアの知識を生かした防災術を公開し、本の出版も行っている。

ビニール袋とタオルなどで作れる簡易おむつの説明では、「大事なのは、防水素材と吸水素材を組み合わせれば、おむつができるというところ。マニュアルに頼るだけではなく、自分で応用を考えながら行動することが大切」と、家庭の防災力を高めるポイントを語っていた。

講演会ではこのほか、ベビースリングとか、シェルジュの園田正世さんによる、抱っことおんぶについての講話も行われた。



あんどろりすさんは、普段持ち歩くバッグに入れておきたい防災グッズや、家具の転倒を防ぐ……さまざまな防災のアイデアを紹介するあんどろさん。シーパル大船渡